京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年

本紙定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)

廣告料金 五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六(三))

發行所 京城新報社

雜錄

秋山將軍を訪ふ

二十二日夜秋山將軍龍山に着し軍司令部金谷參謀長官舍に入られたりと聞き余は一度將軍の英風に接し且つ今回の旅裝に收められたる何ものかを聽かんと欲して昨朝八時三十分將軍の官舍を訪へり、然るに將軍は既に三十分以前京城に軍司令官を訪ふべく官舍を出でられたりと聞き其甚だ後れたるを悔めども及ばず、時尚早からんと危みつゝ去て軍司令部に到りしに、各員登廳して正に執務に忙はしきを見たり。

余は時々日韓の官廳に趨り吏員登廳の狀を知る、先づ離せ參するは小使給仕なり、次に雇員、次に判任官なり、而かも判任官の總員が出勤簿に捺印を終る頃は多く登廳の定刻を過ぐ、若し夫れ高等官の遲くれ或は腕車を驅り、或は悠揚ステッキを打振りつゝ左顧右眄左足を投する時は如何にして右足を投ずべきかを顧慮するかの態して練り行くは刻限を遲るゝこと一時間ならざれば二時間、[illegible]れば三時間[illegible]藉口し[illegible]のなりと云へり、兎もあれ理由は問ふの限りにあらず苟も祿を食む者にして如斯は不埒千萬なりといふべし彼等宴席に臨むや豫定の時刻に遲れざらんことを心懸け、斯る際特に時間の勵行を唱道するを見る、時間の貴重なるは或は人に依りて斯る際にのみ感ずるもあらん然ども彼等も亦國家の公務を行ふに際しては唯其日々々を過ごせば足るもの、如何に其日を送るも月に一度の俸給受領日は來るもの、隨て此間の時間は貴重なるものに非らずと信ずるは無からんと假りに之れ有りとするも其數に於て甚だ少なからん如何となれば彼等の多くは讀み且つ算するの知識と備へ利慾の念甚だ淡からざる善人なればなり、果して然らば彼等は其識る處に依て何ぞ時間を愛まざる、奇しきは彼等の心なるかな。

余は駐韓武官の精勵を見、在韓文官の多くは甚だ忽れるの狀を見て、兩班の國家に對する功績に大なる差を生ずるは將來更に重大なるものあらん心せざる可らざると共なるを感ず將軍不言の敎訓に依り感ずる處を記する爾り

金巾輸入狀況(二)

英米濟三國產の生金巾、晒金巾及シーチングは韓國に於て普通洋金巾と總稱す內米濟兩國產の輸入は年々極めて少量にして殆んど其全部は英國產と稱するも過言に非らず今遡りて洋金巾輸入の狀況を見るに明治二十七年に於て既に百七十萬九千餘圓の輸入あり爾後年々の豐凶爲換の關係其他の事情に依り時々增減なきに非ざるも大勢は需要の增進と共に漸次增加し同三十二年には二百二十一萬六千餘圓、三十七年三百十七萬九千餘圓、昨年は三百二十五萬八千餘圓に上れり內生金巾は昔て洋金巾の主要部を占め明治二十七年の如きは洋金巾總輸入額の九割三分を占め居りしもの昨年度に於ては寧ろ減退して百十三万五千餘圓にして二割二歩に過ぎざるに至れり是れ韓人中流以上に於ては漂白の煩勞なきと光澤ありて外觀美麗なる爲め晒金巾を好むの風を生じ中流以下に在りてはシーチング就中割安にして耐久力に富める和金巾を選ぶの傾向を生じたるに依り晒金巾が其主要の地位を占むるに至りしは近年のことにして明治三十二年に於ては僅かに十四萬八千餘圓に過ぎざりしが爾後十年間逐年急速の增加を告げ一昨年に於て生金巾を凌駕し昨年の輸入は百四十九萬三千餘圓の多額に上れりシーチングは和金巾激增の影響を受け著しき增進を認むる能はざるも漸次增加の趨勢なり(關稅局調査)

●近松傑作全集

早稻田大學に於て豫約發行の同書は近松の精華たる世話淨瑠璃の全部、近松が脚本の標本たる診奇の狂言本、傑出せる時代淨瑠璃等合計四十餘篇の大作を網羅し一篇每に其作の材源由來を詳說し作中の故事難句、狹斜語は悉く之を註釋圖解し又其古版本の模樣を知らせんが爲には表裝、外題、版式、奧附等を寫眞版となし繪入本と丸本との差を示さんが爲古版本を縮寫して精巧なる木版を加へたるものにして全五冊三千五百頁の大冊なりと云ふ其選者は文名隱れなき坪內逍遙、饗庭篁村、幸田露伴、島村抱月水谷不倒の諸氏にして其註釋は近松通の令名高き不倒氏が五箇年を費して脫稿せるものなりと云へば近松に關する空前の大著たるは云ふまでもなし因に云ふ見本を要する者は東京牛込早稻田大學出版部に申込むべしと

碧蹄館行き(二)

伊豫之守

高陽邑(碧蹄館)に着いたのは正午を過ぐる正に三十分何れも空腹を感じたさ見へ茶の用意が出來て居るのを幸ひ、其處此處に陣取つて盛んにバクツイテ居る、熊谷老公と同行小田原氏と吾輩の三人は館の後方なる丘上に上つて老樹の根に腰を卸しウイスキーやら正宗を退治る空腹と來て居るから其味實に得も言はれず忽ちにして陶然たり醉眼を閉ぢて華胥の境に入らんとすれば、遙か下手に擧あつて講演開始々々と叫ぶ、ソレと云つて丘を下れば既に席を設けて百四五十人も列なつて居る、綠韮から來た中には朝鮮日之出の木塚古怪庵氏あり、度支部の阿部事務官も居つた樣に思ふ、講演の始まつたのは午後二時、廣田文學士は一段高き館の正面に立つて講演を開始す(一)講演の範圍(二)史料(三)京城平壤間の我守備(四)碧蹄の役(五)餘記、以上に區別して二時間に渉り長廣舌を振り廻はし時に諧謔の辯を弄し聽者をして思はず拍手せしむ斯くて四時喝采の裡に全く講演を終つた、廣田氏の講演中崔恒錫と云へる郡守殿氏と卓を同ふし煙草を輪に吹きながら頻りに滑稽の態度を現はして居たが、日本語を解せぬ彼れには長き講演に溜り兼ねてか何時しかコソ〳〵と逃げて仕舞つた。

▲碧蹄館の名 同地は碧蹄里と稱し、明の使者が將に京城に入らんとする前一夜は必ず此處に宿泊するので其爲め建てられたるを以て碧蹄館と云ふ四壁は既に破れたれど形ちだけは立派に殘つて居る、正面に關と云ふ字を書いて扉の中に仕舞つて有る、之れは祝祭の當日郡守が遙拜する處である、此日は崔郡守の好意で特に一行の爲めに之が開いてあつた。

▲鐘掛の樹 最前老公と共に木の根に腰を卸して辨當を開いた、其老樹こそ鐘掛けの樹と稱して文祿の昔し小早川の軍が明の大軍を迎擊すべく此處に陣取りし際に鐘を掛けたのだと地方人は言傳へて居る、昔は鐘を掛けて將士が息ふたと云ふ其同じ樹の根に今はウイスキーを呑んで舌鼓を打つ彼れは異の徵カラ之れは大のハイカラ今更ながら一種の快感を禁じ得なかつたのである

◎新刊紹介

▲時事評論(第五卷第三號三月八日發行)卷頭に宇佐川東拓總裁の寫眞を掲げ『日韓平和と宇佐川』と題して讚頌の辭を呈して居る曰く『今や吾人は韓國指導者として即ち日本の世界的代表者として二人を出し以て其手腕に大に賴みつゝあり一人は曾禰氏にして一人は宇佐川氏也』と又同評論記者が宇佐川氏を訪問して其謦咳に接するの光榮を得たる際同氏が『日本には幾つも新聞はあるが眞面目のものゝないので困る』云々と語れるを眞面目に書いて居るイヤ中々面白い雜誌だが唯面白いかと見れば學者の說なども收めて居る(東京四谷區時事評論社發行代價十五錢)

▲數理の友(第一卷第五號二月十五日發行)主筆は武藤鐵吉といふ人で初等數學の驪王と稱して居る四則分數比例など丁寧に解說を與へて居る(東京數理學修學院發兌定價七錢)

▲實業の世界(第七卷第六號三月十五日發行)例に依て大元氣なり大隈伯の『余が國民讀本を著作したる大精神』三宅博士の『處世訓の上手な人と下手な人』などを收む(實業の世界社發行實價十一錢)

▲數學俱樂部(第一卷第七號三月二日發行)主筆は理學士根津千治氏代數幾何三角の講義生命保險の數理の話などを載せて居る(東京神田北神保町帝國數學會發行定價三錢)

日本銘刀傳

第七十四席 邑井一講演

是れより小刀打の名人、金華山兼定のお話を覗へ癖せて少しく伺ひます、昔から小刀は金華山と銘のあるものに限ると迄で言はれたもので、其金華山も種々ありまするが、其內でも兼長、兼定の兩人は一番評判が好い、所が此兼定といふ人は小供のうちからなか〳〵苦勞したもので、恰當三代將軍の末でありますが江戶三十間堀一丁目に大工源造と云ふ者があつた此の源造生れ付いての器用もので其の內にも此の源造は宮を作ることが得意でありました[illegible]の宮大工といふものは普通の大工と違つてなか〳〵六づかしいものださうで所が此の源造は元は越後から出た者だけれど、江戶で修行をしてなか〳〵名人となつたのであります、諸方から源造々々と贔負にされるから、稼ぎさへすれば濡る許りだのに、酒が過ぎるので何うも怠け勝ちだ、忰の七兵衞、僅かに當年十五歲だけれど一風變つた男で、馬鹿に小供が好きで七歲八歲の頃から、自分が小遣を貰つても自分ちやあ一切菓子なぞをば買はない、皆近所の小供に遣つたりする、又た貧しい人であると僅かな餅でも何でも買つて持つて往つて遣る、性來いて刀を鍛つことが好きで每日々々近所に刀鍛冶はないが、普通の鍛冶屋はあります、其鍛冶屋へ來ては仕事をするのを見て居たが好きこそ物の上手なれで、見樣見眞似でもようと鍛冶屋の眞似も出來るやうになりましたが、鍛冶屋の親方も可愛がつて道具などを貸して鍛たして見ると、却つて長年置いた弟子よりも旨い、親父の源造の使ふ鉋や鑿などを拵へるがなか〳〵能く切れます、そこで鍛冶屋の親方が是非弟子に呉れろと云ふけれども、源造なか〳〵頑固で、大工の忰だから矢張大工にするんだ、俺が死んだ後は立派に宮大工で御座候と世を渡つて往くものがないから、忰の七兵衞を是非仕込まなければならぬと云つて何うしても呉れない、七兵衞も又た普通の鍛冶屋になる氣もなかつたが、或日例の鍛冶屋へ遊びに往つて、フト聞いたのは美濃關關官に關兼吉と云ふ小刀打がある、其人の弟子で兼長と云ふ小刀打が一派を開らいてなか〳〵腕前が出來る。今は京都に往つて盛んにやつて居ると云ふ話、さア七兵衞堪らない、何うしても其兼長の弟子になつて、自分の好きな小物打になりたいと考へたから、親父の前へ出て 七『父さん』源『何用だ』七『私やア今日鍛冶屋へ遊びに往つて親方の話を聞くに今京都に居なさる金華山藤原兼長と云ふ人は小物打の名人ださうだが、私も持つて生れた道樂で小物を鍛つのが大好きですが、熟々考へるに迚も私には大工になれないから、一つ京都へ往つて兼長さんに就いて修業をして見たいと思ひますが、長いことは貰はないから、父さん私に五年暇を下さい是非』源『ウム、れ主は京都へ往きたいと云ふのか夫りやア往きたくば往くも宜い五年でも十年でも暇を遣らんこともないが、れ主も知つての通り此の父も仕事の方では三人前も四人前も腕はある積りだが、何を云ふにも飮んだくれの醉つぱいれで、少しも蓄へと云ふものはない、旅用をさへ調達することが出來んが、道中は何うして行く積りだ』七『イエ、夫れは御心配にやア及びません渡る世間に鬼はない、一飯二飯の乞食をしても何うにか斯うにか京都まで往かれませう、拔參りをする者さへありますから……』其頃は十五六の少年が拔參りと云つて、親に無斷で伊勢の太神宮樣へ、道中物貰ひをしても出掛けて往つたものでございます 源『其位に決心したなら往くも好いれ前も知つての通りれ母アに早く死れて、男親の手一つで育てたのだ、れ前が居なくつちやア此父は寂しくつてならねヱ成るたけ壯健で早く歸つて來て呉んねヱよ』七『長がいことはない、五年待つてゝ呉んなさい』と十六歲の少年には珍らしい發明なことでございます

東京電報

●統監府の任用令 本日樞密院會議にては統監府官制改正に伴ふ統監府特別任用令を可決したり

●政府問責案の提出 本日衆議院に於て政友會は緊急動議として政府が韓國に於ける裁判權に關する法律を緊急勅令を以て施行せし違法處置に就き問責決議案を提出して攻擊の活動を始めたり

●外人土地所有法案 本日貴族院に於て外國人土地所有法案を可決したり(同上)

[illegible]

[illegible]は目下[illegible]成功疑なき[illegible]回を實行せ[illegible]方針にて[illegible]回となし右にて內債借替の一段落を告ぐべしと(同上)

●全國新聞の大會 全國新聞通信社大會を四月上旬名古屋に開催する事に決定し目下準備中なり

●醫學大會名代 大阪に開かるべき日本醫學大會に[illegible]宮殿下特に天皇陛下の御思召に[illegible]宮御名代の資格にて御臨場の御沙汰ありたり尙ほ今日迄の出席申込は會員は二萬五千八百に達したり(同上)

●陸海軍恩給法 陸海軍恩給法の改正案は今期議會に提出の筈なりしも地租輕減其他の關係により四十三年度の實施不可能となりたるを以て四十四年度より實施することに決定したり(同上)

●統監不信任の決議 中央俱樂部代議士會は廿一日大會を開き統監不信任案を決し現統監政治に大斧鉞を加ふるの必要ありと決議し桂首相を訪問せり(同上)

●古市博士滿韓視察 古市公威氏は四月二日頃韓國を經て滿洲に赴くべしと(同上)

●東海岸の標識設置 本邦東海岸の港灣其の他の要所には未だ暴風雨標の設置なく[illegible]を以て政府は之が速設する計畫なり

●同仁醫院長と學位 龍山同仁醫院長今村保氏へ近日醫學博士を授けらるべし(同上)

●兇漢安重根の近況 [illegible]

北京電報

●同志會員首相訪問 同志會員は[illegible]日桂首相を訪ひ一時間餘に亙り密談を凝せり(同上)

●駐英公使の後任 駐英公使李經芳氏は來る五月滿期となるべきを以て歸國を希望し之が後任者撰定を申請せり(廿三日)

●吳祿貞旅團長任命 [illegible]

歐洲電報

●佛米關稅の協定 米國大統領タフト氏は佛米協定稅率を締結し佛國に對する關稅二割五分引下げをなす旨を公表せり(廿三日)

●伊太利內閣の敗北 伊太利內閣は補助金制度により[illegible]敗北せんとす(同上)

●塞耳維王の往露 塞耳維國王は目下旅行中にてグルツーリに旅行しつゝあり同地より露國宮廷列車にて聖彼得堡に趣むべし(同上)

●高女學事成績 京城民團立高等女學校第二回卒業證書授與式は二十四日[illegible]より[illegible]擧行せられ[illegible]るべきが社會の要求に鑑み學則の改正を行ひ[illegible]して女子須要の技藝二三學課の變更を爲[illegible]切ならしめんとす生徒[illegible]調査は本校の特に注[illegible]精細なる照會を發し家庭との連絡を計[illegible]し其實を擧げんと努め一方法として十五區相互間修德研學の置間を揭示して常識養種の點に注意を施し學期を經過せり云々

●李完用氏の近狀 廿三日大韓醫院外科部長森安博士診察の結果を聞くに[illegible]理は負傷の爲め肋膜と肺の間に水を[illegible]術を施し之を取去り[illegible]患者は水を取去れば[illegible]爲めに全快後も呼吸[illegible]見ゆるものなれども總[illegible]幸に十分の一位に止[illegible]となく唯深呼吸には[illegible]く其他には全く餘病[illegible]し云々尙ほ昵近者の[illegible]院よりは隔日位に往[illegible]まる日は庭前を漫步し[illegible]試しつゝあり食事は最[illegible]時には接近を避けし爲[illegible]減じ唯己むを得ざる[illegible]居れり溫陽又は東萊溫[illegible]意思ある樣新聞に報道[illegible]處全く去る計畫なく[illegible]ざるを以て汽車に乘ら[illegible]越ずべく京城も追々氣[illegible]つゝあれば强ゐて轉[illegible]なかるべし云々

●韓國問題と議會 [illegible]記官より統監府へ着し[illegible]會に於て明治四十一[illegible]の件承諾せられ續て[illegible]城津被害救恤[illegible]案を修正可決せしが[illegible]外務大臣の反對意見あ[illegible]り又た大內代議士[illegible]に對する質問に對する政[illegible]に於ける本府關係事[illegible]昨日發表せられたり之[illegible]られたり

●韓國銀行券の印刷 韓國銀行にては既[illegible]に銀行券の印刷を日[illegible]し目下原版の作製中な[illegible]に出來すべくさすれば[illegible]來る十月より發行する[illegible]目下作製中の原版は一[illegible]種にして色合は五圓十[illegible]色裏面を薄藻色に變[illegible]銀行券と同色なるも一[illegible]第一銀行券同樣とし文[illegible]に裏面は日英字にて記

●東拓社漁船の到着 東洋拓殖會社の漁業經營に從事せる漁船は既報したる如く佐賀、福岡、長崎及び熊本の四縣下より出漁の筈なるが熊本縣に於ては汽船に搭載して運搬するの計畫あり長崎縣にては既に錨地を出帆したる由にて目下は航海の中途に在り何れも來月十日までには漁場に到着の豫定にて一方會社が漁獲物運搬に用する鬪平船十艘の內その一部分は既に鎭南浦へ到着したるものあり小蒸汽船は二艘を備へ付くる筈なりと云ふ

●李範晋の處置奈何 近來に至り無免許渡露の故を以て露國官憲より押送し來る韓民頗る多數に上り一々慶興府尹に於て之を接受しつゝあり現に去る六日韓正熙以下十八名九日には尹星七以下九名を送還し來れるが孰れも善良の民にして勞働に衣食せん事を希望せるものゝみなりといふ露國官憲の注意周到なる誠に結構の事なるがさるにても李範晋の如き無免許渡露者に對して何等の取締を勵行せざるは聊か片手落ちの所置といふべし

●韓大學の設立計畫 普成小學中學の二校を經營し其夜學部として政法經濟の學校を開始し居れる李鍾鎬は韓國に一の大學校なきを遺憾とし右政法學校を基礎とし大學を設立すべき計畫にて關係者と協議中なりと

●仁川各校の授與式 仁川民團立小學校の卒業修業證書授與式は昨二十四日午後一時より擧行官立普通學校の第一回卒業式は明二十六日午後一時より擧行せらるゝ筈なり

●排日新聞發賣禁止 桑港發行の新韓民報第一七二號及び布哇發行の新韓國報第八四號は治安を妨害するものと認め內部大臣は該新聞の發賣分布を禁止し是れを押收したり

●土地調査員養成所 學部にては今回外國語學校に土地調査技術員の養成所を又漢城高等學校には土地調査員養成所を附設したりと云り

●水雷艇隊仁川出港 仁川港投錨中なりし第九水雷艇隊早鷹、燕、雁、鳩の四隻は昨二十四日午前七時鎭海灣に向かつて出港したり

●韓銀株券の交附期 韓國銀行株券は目下龍山印刷局に於て作製中なるが來る五月十日頃迄に出來し直ちに株主に配附すべしと云ふ

●敎職員舍宅入札 西大門外に新築せらるべき京城民團立小學校敎職員舍宅十三戶の請負入札は廿四日午前民團役所にて行はれたるが入札者十七名ありて二千八十圓を以て秋葉某に落札す

●地方行政調査會 廿四日午前十一時三十分より統監府に於て地方行政調査委員會例會あり石塚長官の外松井參與官澤田地方局長中山書記官等參列す

●水雷乘組員入京 目下仁川に碇泊中の第九艦隊に屬する鳩、隼、燕の乘組水兵三十四名は廿三日午後二時五十分仁川發列車にて入京城內を見物せり

●敍任辭令 左の通り辭令あり

度支部司稅局長兼臨時財源調査局長 鈴木穆
兼任關稅局長敍勅任官三等
稅關技師 木下重松
任關稅局技師敍奏任官二等
關稅局事務官 小幡三郎
任關稅事務官敍奏任官三等
土地調査局書記官 韓圭復
命調査部整理課長
同 菅田勇
命總裁官房庶務課長
同 事務官 橋本金太郎
命同上庶務課勤務
同 柳興世
命調査課勤務
同 近藤左右一
命總裁官房會計課長事務處理
同 事務官 陶山武二郎
命總裁官房庶務課勤務
同 技師 中田三郎
命測量課長兼三角課長製圖課長事務處理
同 梅津武雄
命測量部三角課勤務
同 豊田四郎
命大邱出張所勤務
同 池田活之祐
命平壤出張所勤務
同 書記官佐々木藤太郎
命調査課長兼調査部長事務處理
同 事務官 牧 雅
命調査課勤務

官商結託の實證
(京城會議所の調査)

官商結託の弊として統監府所屬官吏の名義を以て奸商輩が無稅にて貨物を輸入することを記載したることあるが今本問題に關して京城商業會議所が調査したる所に依れば昨年の無稅小包郵便物の輸入額は九十萬圓に達し之を現任の統監府(鐵道廳を含む)官吏の總數を以て除するときは平均一人に付き一箇年の無稅小包購買高は四百八十八圓と云ふ驚くべき多額を算するに至れりと云ふ之に伴ふ弊害の一二を擧げれば

▲官名の濫用 統監府及び其所屬官吏の名義を以て小包郵便物を受くるときは免稅の特典あるを以て官吏及び家族以外知己友人等の小包郵便物を依賴に依りて無意識又は已むを得ずして又は故意に自己の官名を利用し又は利用させつゝある者殆ど其十分の三以上にありと

▲商人の奸策 或商人の如きは顧客たる官吏の希望する物品あるを幸ひとし其官吏の名儀を以て母國より輸入することを約し僅か二三個の注文に對し同樣の物品數十種取寄せ殘品は自家に引取るを例とす其他之に類する奸譎なる行爲盛に行はる斯の如きは多く高貴の物品にして下等品には殆んど皆無也と

電鐵工事の着手期
(黃金町筋不認可內定)

日韓瓦斯電氣會社が六十萬圓の巨額を投じて電線擴張を行ふべき由は既報の如くなるが現在總延長は約十三哩にして此內鐘路より南大門驛迄を複線とし更に十五間道路に新線を架設すべき計畫にて此哩數約五哩なりと而して資金町通は街路狹隘の爲め內部は認可を與へざる方針なりと云ふ尙ほ着手期は既に諸材料注文中なれば到着の上工事に取掛かるべく豫定は四月中旬にして夏季中に竣成せしむる筈なり尙ほ現在運轉車輛は日々二十二三臺なるが擴張の上は二十輛を增加し南鐘間は大に運轉度數を增すべしと

委員辭表の撤回
(民會議事漸く進行)

京城民會豫算審査委員會の經過は昨紙所報の如く皆川委員の辭表提出に依りて一時非常の紛擾を極めたりしが委員會の組織は即ち民會の決議を以て成立するものにして若し既定の定員に不足を生じたる時は更に民會を促催して定員の變更又は其補缺撰擧を行はざるべからず斯くて徒らに時日を荏苒する時は豫算年度更始切迫の場合なれば故障を來すべきを以て古城民長は非常に苦慮し皆川氏に對し切に留任を勸告する處あり同氏も民長の熱誠を諒とし二十三日正午辭表を撤回し午後二時より開催の委員會に出席し其結果漸く議事の進行を見るに到れりと

●築港期成會の總會 仁川築港期成會總會を一昨廿三日午後七時より民役所樓上に於て開き今後の運動方針其他に就て審議せし結果從來の上京委員を廢して更らに調査委員廿名を設け一方築港に關する調査を爲すと同時に外部に向ひては大々的速成運動を開始する事に決定し即時左記の委員を撰定して午後九時散會したり

△民會議員中より 稻田、潁原、加藤、伊東、平山、入田、奧田
△商業會議所議員中より 青木、兵須、桑野、森、加來
△公民權を有する市民より 田中(佐)、淺井、樋口、堀、秋田、美濃谷、村谷
△右の外岩崎民長を委員長に推薦せり

●戶別割の附課方針 民會委員會に於ける豫算審査の經過は既に歲出全部を審了し二十三日午後二時より歲入經常部を始議せるが歲入の大部分を占むる戶別割標準に關し民團案の不公平に失するを認め委員中之が修正を希望する向勘からざれば容易に進行を見る能はず二十四日も亦午後三時より夜十二時にかけて議事を進行せる筈なるが如上の次第なれば全部議了し能はざるべし而して委員の意見は可成中流以下に輕くせん方針なりと云ふ

●馬山飛鳳間の航路 馬山商船組に於ては去る十四日より帆船を以て馬山、飛鳳間の定期航海を開始したるが帆船は二十名を登載し得里程二哩半一時三十分にして達し賃錢は七十錢なれば該地方民旅行者の便利一方ならざる由尙ほ縣洞、德山、馬川等にも航海を開始する豫定なりと云へり

●愛國生命保險成績 同保險は此程總會を開き四十二年度營業成績を報告したるが同年度に於て八百六十餘萬圓の新契約を得解約の比、僅少にして結局五百七十餘萬圓の純增加にして良好の成績なり又同年末現在契約は三千九十四万圓積立金三百四万五千餘圓に達し基礎益々確實となり株主には年一割の割當をなしたりと

●商工調査の着手期 農商工部に於て全國商工業の調査を行ふ由は是迄屢々報道したる所なるが今回新任事務官伊藤鐐三郎氏來任せられ主として同調査の事務を管掌する事となり他の調査委員も追々任命せらるゝ筈なれば着手期も近きにあるべしと

●日韓瓦斯株と市場 此頃より東京株式取引所の市場に上りたる日韓瓦斯會社株は現物取引當時は二十七八圓乃至三十五六圓なりしが去る二十三日の着電によれば四十一圓三十錢の高價を示めしたりと云ふ

●木內次官の歸朝期 農商工部次官木內重四郎氏は共進會の開催を期として歸朝せらるゝ由なるが一週間餘微恙の爲め引籠り居られ未だ快愈せざれば今月は到底歸朝出來ざるべし多分來月中旬頃ならんといふ

●會議所の總會延期 京城商業會議所總會は二十三日午後七時より開會する筈なりしも民團豫算委員會と同時刻なりし爲め自然延期せざる可からざるに至り開會せざりしと

●秋山騎兵監の訪問 昨二十四日午後三時秋山騎兵監は石塚長官事務取扱を統監府に訪問したり

●平壤財務官赴任 平壤財務監督局在勤を命せられたる元大邱財務監督局事務官水口隆三氏は赴任の途次來京滯在中なりしが廿六日任地に出發する由

●小林局長の入京 度支部參政局長小林敬次郎氏は廿三日入京山本旅館投

●片上大尉の出發 臨時測圖部工兵大尉の同氏は廿三日平壤へ向け出發す

●山崎次郎氏出發 入京中の牛莊領事官補の氏は二十三日東京へ向け出發

龍山通信
(廿四日 支局發)

▲參謀本部員步兵少佐高田豐樹氏は二十三日北韓より來龍視察の上二十七日出發歸朝の豫定なりと▲第六師團に代り韓國守備の任に就くべき第二師團の重なる職員氏名は左の如し 師團長陸軍中將松永正敏、參謀長步兵大佐市川堅太郎、參謀少佐前川讓吉、大尉中村定吉、副官少佐岩井勘六、大尉佐藤直、法官部長柴田猪、經理部長一等主計正田中三郎、軍醫部長一等軍醫正中川十全、第十五旅團長少將中村無一、第二十九旅團長少將齋藤力三郎、步兵第十六聯隊長大佐森知之、同第六十五聯隊長大佐飯島織[illegible]、同第三十聯隊長大佐[illegible]三郎、同第四聯隊長大佐[illegible]、野砲兵第二聯隊長大佐[illegible]、騎兵第二聯隊長少佐[illegible]、工兵第二大隊長少佐野一色[illegible]吉氏等なりと▲龍山民會は一昨二十三日午後二時より龍山民團役所樓上に於て[illegible]會出席議員十二名(渡邊、川本、稻垣[illegible]行四議員欠席)日程を變更して第七號議案龍山民團基本金の內一千四百[illegible]圓を四月一日より十月三十日限り龍山醫院々主外二名へ連帶債務にて貸付の件は疑議なく可決、第八號議案四十三年度龍山居留民團歲入出豫算更正の件も疑議無く可決第九號議案室井溫泉より申出でたる小學校基本金中へ寄金採納の件可決第十號議案龍山桃山二種料理店敷地擴張申請の件大村議員の動議にて委員附托、第三丁議案四十三年度歲入出豫算は民長の交際費三百圓を五百圓に增額するに決し他は委員の修正通り可決是れにて同日は[illegible]會し尙ほ昨二十四日も引續き開會せし委細は明日の紙上に揭げん

▲治外法權▼ 時勢の進步に伴れて半島特に京城に各種の經濟機關を造るの必要あるてとは勿論の事だ、[illegible]下其筋へ設立認可申請中のものは[illegible]取所と貯蓄銀行との二つだ、思ふに將來に於て此種の申請が續々出るにひがない▲必要に伴れて經濟機關が[illegible]設さるゝのは結構の事で、之は日韓[illegible]民の自覺した證據で有望の者なら[illegible]限り當局は寧ろ獎勵の意味を以て[illegible]をすべきである、只玆に考ふべき[illegible]局が認可不認可を決するに於て據る[illegible]き一の標準である、當局幸に標準を[illegible]せりや否▲半島目下の急務は半島[illegible]り資本の輸入である、斯は官民の[illegible]と擧げて勉めざるべからざるとこ[illegible]ある、依つて思ふに新設さるべき[illegible]機關は貿易產業に關係を有する外[illegible]入に便となる者でなければならぬ[illegible]局認可の標準も蓋し玆に置くべき[illegible]末枝葉の事は多く問ふを要せぬの[illegible]る▲大坂朝日の東西人出てゝ盆面[illegible]昨は英の外相グレーが現はれ今に[illegible]遺の桐竹紋十郎が出る、外相と人形[illegible]斯く多方面でこそ人生が多趣味と[illegible]のである▲昨年中內地に於ける自[illegible]の總數が五百五十八人だツーだ、[illegible]て自殺の方法中最も多きは縊死[illegible]番少きは電線往生だツーだ、之を[illegible]見ると邦人には死ぬにさら枝振[illegible]い松などと捜す古風な悠長者が[illegible]多數を占めてる事が判かる。

惨酷なる二葉亭(三)

れ内儀の毒腕……冷酷から成効……金箱のれ梅……つんぼの百合子

先づ嵌う云ふ順序からして二葉亭と云ふのは開業せられたのであるが何分薄資本の事だから大袈裟の女を入れる譯にも行かずと云つてまだ其の頃京城酌婦一匹の單價は今日此の頃の樣に此れ程沸騰はして居なかつたので成々御一人樣八十圓位が先づ上種とされて居つたから中の下に至つては僅かな金で抱ね込む事が出來たのである處で始めは二三人のナツプンを抱ね込み是れを踏臺として大發展を遂げ樣と云ふ野心、併し其の野心は遂に實現せられたのである無情なる彼れ高田みかの毒腕は抱ね酌婦を遇するに殆んど人間視せず恰も畜類にても取扱ふが如き惨酷と虐待のあらん限りを逞ふし斯くして積み上し金にて些し劑の好き椋鳥があれば入れ替へ引き替へ漸くにして悪魔窟の地盤を[illegible]少上玉[illegible]の家[illegible]角[illegible]屋[illegible]ある[illegible]から[illegible]が大な[illegible]う一つ[illegible]同樣が常に[illegible]抱ね込むで客足を食ひ止める事と其の玉を外に外らさぬ事の二つである、と云つて了へば夫れ迄だが此の二つが中々切り廻して行ける者でない女が美ければ虫が附く、自然と腰が浮いて來る樣ては出るの入るのゝ問題となつて仕末に了へぬのだ、此の仕末が了へる樣になれば先づ淫賣屋では成効すると云つて可からうが併し這麽成効は到底常人には出來ぬ悪鬼羅刹の如き二葉亭にして始めて實行する事が出來るのだ

處が茲に元新町遊廓の松葉樓で娼妓をして居つた女で小万と云ふ悪度胸の皮の剝けた女があつた女郎を廢業して一時花の家といふ當時南大門通りの料理店へ大入と名乘つて藝者を遣つて居つたが此が二葉の抱ねとなつて同樓へ入り込んだ爲めに端なく戸籍法違犯と云ふ膽本問題なる者が起つて來たのだ

順川暴民の罪狀

▽起訴されたるは十六名

順川暴動事件に關する犯罪嫌疑者として過般來平壤地方裁判所檢事局に於て取調中なりし左記各被告人は去る十六日起訴せられたるが内表昌洽、羅仁坤、羅學道の三名は逃走後行衛不明なりといふ

反物商 崔鳳煥(一四)　無職 李煥道(三二)　烟草商 崔世鳳(四五)　菓子商 表永玨(二四)　農業 徐福用(一三)　農業 朴應銓(九一)　活版業 李基水(一五)　無職 楊召史(五四)　反物商 李鵬鉉(六三)　無職 金尙鎬(九一)　無職 金允玶(一五)　裱商 羅學道(八四)　裱商 羅仁坤(三三)

染料商 金景淑(七三)　穀物商 趙得模(九二)　雜貨商 崔學鳳(七三)　大工職 高陽竜(一二)　農業 崔相般(十二)　靴職 崔南俊(十三)　大工職 洪鳳奎(五三)　無職 林召史(二四)　鋸職 金景八(一七)　無職 柳永賢(九一)　農業 李裕興(三三)　裁縫職 表昌洽(七二)　烟草商 韓鳳淳(七三)

右の内罪狀の最も重きを擧ぐれば一月二十九日順川邑内館上里市場にて多數の商民を煽動して財務署に押懸け行き財務官吏に反抗的質問を試みたる結果「我等は寧ろ死するの勝れるを思ふ」と絕叫し奮興せる民心を激發して郡衙使丁舍に隣れる土塀の外側に蹈し衆を指揮して投石をなさしめ野澤主事殺害の時もその傍らにありし崔鳳煥、巡査駐在所の番人田鳳化夫妻が平素日人に雇用せられをれるを憤慨し燃藥を運搬し來りて駐在所に放火したるのみならず木村庄太郎外二人合同の商店に闖入して暴行を加へたる趙得模、崔學鳳、巡査許善、山田三郎、渡邊泰三郎等が郡衙の裏門より逃れ出でたるを追蹤し數里の間死石を投じて迫害を加へ之を殺害せんとして目的を達せざりし崔世鳳、郡衙の側より熾んに投石し南面の路傍に追附き遂に石にて毆打し死に至らしめたる李基永、松薬を運搬して放火の手助けをなし「韓人は團結力なきが故に他の侮蔑を受くる也」とて地團太踏んで泣叫びたる林召史等にして其他はいづれも群集を指揮し郡衙に投石したる不逞の徒なりと

韓人五名の漂流

▽十五日間海上に漂ふ

咸鏡南道咸興郡東雲田面福興里の住民金斗永(五八)金昌實(三三)金吉安(四六)李昌萬(五四)李萬百(二八)の五名は一月廿七日明太魚買入れの爲め北靑郡陸合に到りし歸途三十日朝來の暴風に遭遇し其儘行衛不明となりしかば家族は何れも水中の藻屑と消へ果たるものとし徒の向養に悲しき月日を送りしが去る十一日に死したる筈の同五名の中金永斗を除く四名が無事に歸來しければ夢かと計り吃驚したるも無理ならず今其の顚末を聞くに三十日朝一同の乘組みたる船は咸興郡東館面東伐介の沖合にかゝるや天候俄かに一變し黑雲四邊を罩め狂瀾怒濤凄まじく風は暴威を逞ふし只さへ小さき船は木の葉の如く飜弄さるゝにぞ一同は必死となつて働きしが遂に梶を損じ續いて艫を流失し全く自由を失ふに至り一同は運を天に任せ偏へに神佛の加護を祈るより外なく翌日になりて漸く風波も鎭り蘇生の思ひしたれど眼の限り渺々たる大海原に何處と知る由もなく當もなければ助けを求むる業もなく波に任せて漂ひしが又もや一大危難は一同の頭上に落かゝり互に顔を見合せし途方に暮るゝこととなれりそは糧米の絕へたるにて愈々一同も死を決し飲ず食ずに十一日を船底に横はり僅に呼吸を續け居る中天未だ捨て給はざりしか十四日目に露國漁船の發見する所となり其儘救助され二月十七日浦鹽のカイソンと云ふ地に上陸する事を得同地警察署は同地居住の韓人崔鳳俊に引渡されたるが永き漂流に疲勞し盡せる一同の中にも年嵩の金斗永は遂に衰弱の餘り上陸して五日目恨を呑んで他鄕の土と化し殘る四名は浦鹽在住の韓人の情けにて船賃を寄附され三月七日浦鹽港を出發し十一日西湖津に上陸歸途に就きたる次第也と

●餅賣の舊惡 京都生れ當時太平洞六十四統八戸餅賣業川勝利三郎(三七)と云ふは日常の素行甚だ怪しむべき廉あるより南部署にて取調べし結果利三郎は客年十月中京都堺町太物商大橋忠吾方に雇はれ中同家の賣掛代金四十三圓六十六錢を取集め拐帶逃亡なし居たる者なる事判明せしかば一昨廿三日有無を云はさず南署へ同行の上檢事局へ送らる

●行旅病者 山口縣生れ古屋幸槌(三三)と云ふは去る卅七年渡韓俳優團体なる演劇に加はり諸所を興行同座の手傳ひを爲しゐたりしが昨年十一月同團体が解散すると同時に本町七丁目京城座の世話方綠鐵之助方にて諸種の手傳ひを爲し居る内肺病に罹り療養中近來病勢俄かに重態となりしも薔財とて別になき爲め藥用の手當も出來ず依て其の旨を南署へ訴へ出しかば一應取調の上事實相違なきを以て行旅病者として大韓醫院へ送らる

●火事(地方) 去る十五日慶北順興郡丹山面に出火あり燒失家屋一、當年四歳の男兒一、牛一燒死せり

●洋傘から問題 仁川栗木洞居住辛廣七(三七)は一昨日京町二丁目の玉轉がし屋にて十五錢を費し玉を轉ばしたるに運好く洋傘一本に當籤したるも當を左右に托して現品を渡さざれば說諭して取調べたれど要領を得ず結局十五錢を辛に返却せしめて事濟み

●薔藥代の支辨 仁川京町二丁目新道路開墾人夫なる河王楚(三三)は一昨日午前七時頃仕事の仕振りが惡いとて龍岡町二丁目居住の人夫頭池永新(三〇)と云ふに股を撲られ負傷せし騷ぎに警官出張薔藥代を支辨せしめて落着

●日本麥酒の出張所 そろ〳〵麥酒の季節に向ひたれば京城南大門外御成町五十四番戸に出張員詰所を設けて大に販賣を弘むる由

目と耳

▲壽座 大入日延べ後も不相變大入氣大評判の曾我廼家一座本晩の替り狂言としては左の如し

第一番目 御祝儀大入祝ひ 一場
第二番目 西洋洗濯 四場
第三番目 白石噺 三場
第四番目 性は善 三場
大切 出世之鼻息 三場

▲京城座 同座本晩の出し物は「河内十人斬」の通し物其の配役は紳士土井達夫(伊井)下女はな(花井)書生山本(千葉)啞の傳吉(川崎)れしげ(金澤)木挽の正八、彌五郎妹やな(桂木)刑事山形一(田中)婆々れさら(高山)熊五郎(高島)巡査加藤(上田)刑事増田(潮)下女きく(入島)茶亭吉兵衛(秋岡)下女れたけ(三好)木挽北作、熊次郎(美崎)彌五郎(瀬川)

▲浪花館 同館にては昨廿三日より向ふ一週間韓國助産婦養成所の發起に係る慈善演奏會開會日韓取り交ぜての奏樂演舞等ある由なれば面白かるべし

朝鮮の風習(三)

▼珍妙の事許り

そして妾出の子も直ちに庶子として父の家に入るので、日本の私生兒と同樣には見做されない、之れで蓄妾の弊を絕つて次に醜則の結婚法と合血法といふのを御披露しやう。甲の部落に一寡婦があつたとする、乙の部落に似合はしき獨身者が居て彼の女が好からうといふことになると、若者等は面白半分に寡婦を誘拐して來て同棲にして了ふ、夫れから何か女の事情有つて一人旅でもして居るのを途中で抑留して嬶にするのもある、姦夫姦婦も甘く行けば天下晴れて夫婦になることも出來るらしい、之等は皆醜則の婚姻法だが、合血法といふのは、有夫の婦が姦婦の子を生むだ時、本夫と姦夫との間に誰れの子だか分らないといふ爭ひになつた塲合は、郡守は血に水を盛つてそれに本夫の血と姦夫の血と生兒の血を滴して見る、而して生兒の血が抱合つて凝結したのを以て父と定めたものだ、何れ昔の事だ。

死ぬ時と死でから

朝鮮人の臨終には夫れが男なら看護人も男ばかり女なら女ばかり付添ふのである、愈斷末魔となると莚を以て幅廣き板を蔽ひ、病室に運び病者を其上に移し夜具を以て蔽ひ病者の顔を南に向はせる、息を引取つたら綿で口を蔽ふ、これは死人が最后の息を其中に留むる爲であるさうな、此時死者の子は將に死せんとする其親の目を蔽ふ之れも孝行の一端だといふことだ、それから近親者ばかり死体の傍に集まり大聲を揚げ胸を打つて慟哭する、同時に其家人は男女共皆髮を解く、死体を安置する室には小さき机の上に飯、豆、菓子酒等各三椀を供へ其外藁鞋三足紙及覆布等を載せ、三回死者の名を呼ぶ、然る後食物を總て戸外に棄て、爾餘の供物は其邸内に於て燒棄てる、是等の物は死者の靈と、それから地下に於て死者の靈を判官の前に導く役員に供ふるのである、判官は十人あるといふことだ、倘ある、夫れに死者の衣服を一枚持つて屋根に上り之れを展べて左手に襟を取り右手に横の縫目を取る死者の靈が行くべき方に向つて死者の名を三呼する、死者の靈は北方に行くことになつてゐるさうな、朝鮮人の信ずる處では人には三つの靈魂があつて死後一つは追善帳に留まり、一は山靈の世話を受けて山陵に歸り、殘つたのは不明の世界に十人の裁判官の前に引かれ其の生前の行爲によつて淨土行とか地獄行とかの宣告を受ける(まだある)

▲支局移轉▼

本社龍山支局を若松町二十二番戸へ移轉す

龍山支局長 長野直彦

▲支局移轉▼

同營業主任 塀和正

▲平民文庫▼

▲先頃來韓人車夫獨り等へ日本人の賭博者が這入り込んで彼れ等が懷中を浚つて行くとの事とは屢々耳にした所であつたが此の頃に至つては野天即ち各人力車停留塲へ迄立ち回つて如何はしい事をして居るのを見受ける樣になつた面白からぬ事だ何うか其の筋の御取締りを願ふのである(風聞子)▲太平町に櫻花堂と云ふチヨコマンな菓子屋の亭主は先頃女房に死なれたので少々自暴氣味で此頃は仕事も碌々せずに居るが縱許自暴になつて遊んで居ても死んだ女房は蘇生つては來んよ思ひ直して働け〳〵(近所の人)▲長谷川町大觀亭の側に古道具屋が二軒ある甲の方には「何んでも相當の値に買います」とあり乙の方には「何んでも高價に買ひます」とある商買の巧手拙手は別として僕は前者に與する(通行人)▲西小門通りに則本と云ふ關税局か何んかへ御勤めの役人が居られる其の人の妻君と云ふは太平町の〇万の酌婦であつたのを前借を踏み倒して引き出したのだ(鈍痴氣)▲役人も人間なら淫賣だつて人間だ人間たる男と女とが夫婦になつたとて不思議はない已に之れが怪む可らずとすれば事實前借位い踏み倒したとてから不思議はない前借の踏み倒しは無頼漢にだつて出來る况んやれ役人の御威光を以てするに於てれやである(小僧)▲高等官連の夫人達が夫れ〳〵僞手を以て高利を貪る爲めに民間に放資されて居ると云ふことは何うも事實らしい而して此れが夫人達の蹟繰金計りとしては其の額が多過ぎるとの評判がある此れも尤もな評判と思はれるが何にも貯蓄心の向上からだと思へば歡迎すべき風潮でがな御座ろ(紅)▲何んとか云ふ婦人科醫は患者に對して怪しかる擧動を爲すと云ふが事實とすれば不埒なるドクトルメヂチーチです(又聞生)

京城居留民團公文

京城居留民團告示第七號

京城居留民團立第一尋常高等小學校同第二尋常高等小學校學則第十一條ヲ左ノ通リ定ム

明治四十三年三月二十四日

京城居留民團民長 古城管堂

記

第十一條 高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歷史、地理、理科、圖畫、唱歌、体操、手工、英語、韓語トス女子ノ爲メニ裁縫ヲ加フ英語韓語ハ隨意科トス

美術半襟帯締其他紐類各種
京城明治町一丁目
電話一千四百〇九
ゑり徳商店

▲無料紹介欄▼

人事部

●被雇度 三十四歳貨物取扱及通關手續に經驗あり多少英語を解す會社又は商店諸官衙を望む 氏名在社（一〇）

●農園 野菜類經驗ある確實なる人 協同者を求む但し經驗 電話一二四二番方 ないとう

●書生採用 廿歳以下確實なる保證人ある者を求む 旭町二 提法律事務

物件部

●貸家 平家一戸建間敷四間及長家一戸間敷三間場所南大門外吉野町

●瓦葺平家 建坪十五坪乃至十八坪の家至急買入たし 電話七四番へ

●電話買入（姓名在社）

告

……したり（一）……

割……之候……

療

◎主治……腫物……痛、關接諸病……、ちみ、くちぬ、りよまちす
其他醫藥効なき頑固痼疾を治療す
京城太平町二丁目大漢門通光化門寄
長淵軍醫監東京仁壽病院マッサージ一部
京城出張所
助産の需に應ず産婆荒川元子

御料理 席貸
和樂園 高田家
（電話九三七番）米倉町
○料理は高尚御手輕にして高尚
○園内は至極閑靜にして別世界
○大廣間の設備も有之候間集會
又は宴會等に適當に候

京城鐘路の喰物は何んだろー！
裁判所前の洋食店 鐘路軒の
松茸めし
酒一本 外和洋料理五品付 一人前六十錢
價が安くて うまくて はらにたまるよ 皆さん一度たべてごらんなさい
又和洋料理和洋食共辨當の注文するとすぐ一つでも持つてくる 極く便利ですよ
電話壹四二九番 客用有ます
◎監獄辨當の差入も引受ます◎

入院隨意
内外科
小兒科
梅毒淋病
京城壽町三丁目
高井醫院
電話（二一六）
院長 陸軍軍醫正 高井貞治

明治廿年七月創立● 京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九番
東京火災 海上運送 保險株式會社
資本金一千萬圓● 事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

生儀多年京都帝國醫科大學耳鼻咽喉科教室に勤務罷在和辻博士の下に研究致し居候處今回左記に於て斯科患者の診療に從事致し候
耳鼻、咽頭、喉頭、氣管病
診療時間 午前九時至午後七時迄
旭町三丁目（三日月旅館上）
石田耳鼻咽喉氣管科醫院
前漢城病院耳鼻咽喉科部長 石田誠

今般石田誠君貴地に於て開業致候間小生同樣御眷顧被下度候
京都醫科大學 醫學博士 和辻春次

神戸養生分院
京城相生町（南門湯横）
京城梅毒病院
◎花柳病專門並、痔（注射療法）
●入院隨意●
（電話一二九四）
院長 醫學得業士 廣田耕平

諸荒物世帶道具一切
其他和洋蠟燭 アサヒ サツポロ ビール 精白米
右大勉强仕候に付陸續御用命仰付られ度伏奉願上候
日用雜貨 御問屋 西崎嘉七本店
京城本町六丁目
電話二一〇 電略（ニカ）
振替貯金口座四七番

營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐ヂシン
穀物食鹽
諸染料類
諸官衙御用品調達
委託販賣
東京 ランバーメ商會代理店
東京 中外アスファルト株式會社代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
東京 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約
釜山 臺灣鹽合資會社食鹽特約
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所 東京京橋南鍋町一丁目 電話新橋三六九二番

越
四月一日より七日まで
春季大賣出し
幷に 新製品 見切反物 色々取揃へ居候
京城本町
三越呉服店
電話三五二番

論より證據 來て見りやわかる
食道樂
京城壽町二丁目
電話九四四番

移轉御披露
御蔭樣にて日増しに繁昌にもむき從來の店にては手狹を相感じ候に付同町六十九番戸（從來の店より三軒上る金澤旅館へ入角）へ移轉し一層大勉强仕候間倍舊御引立の程奉希上候

牛肉 御小賣 京城明治町一丁目
はたのや事石田精肉店改
石田兄弟商會
電話千四十二番
商號變更

大 𠆢 萬
特約販賣
味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目
大上商店
（電話二五一番）
和洋酒、缶詰、醋、穀物麵類銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、鰹節、塩辛、日本製食鹽各種特約販賣
自他御望に依り商品切手調進仕候

生儀左の所に移轉し法律事務の御依囑に應す
京城南部大坪坊爲字廳洞三統三戸
（大韓天一銀行北側東入）
前判事 辯護士 田中圭三

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セス）
京城旭町二丁目六十七番戸
辯護士 岡田榮
（電話三九八番）

京城明治町二丁目（佛國教會前）
辯護士 特許辯理士 岩田仙宗
電話三五四番

蒸氣消毒
牛乳
京城大和町一丁目
平山牧場
電話一三三

めし道樂 開業御披露
鯛 松たけめし 一人前三十錢
あなご 竹の子めし たなしく
鶏 ゑんどうめし たなじく
なくて七癖と申しますから隨分色々の道樂もありますが就中めし道樂ほど、よい道樂はございません、此道樂を發揮せん爲め、わざ〳〵大阪表から引り拔きの美人を呼びよせ釜のまゝ御座敷の眞中に持運び御客樣の御嗜好に任せ按排加減を程好くして差上ます何卒御賞味かた〴〵御來遊の程ひとへに願入申ます
尚多少によらず出前も御便利に迅速にれ届け仕りますから御用命の程御願申上ます
大和町三丁目 梅の家眞向ひ
明月
電話七三五

京城南山町（元日本人倶樂部事）
京城ホテル
長電話 一二三番
電話 四九二番

韓國銀行
本店用 電話（長）三三、三六、一二〇
當直用 電話（長）二六、一〇
用度係用 電話 三三、一一
來客用 電話 一三、二一
臨時建築部用 電話 三六、三一二
支店出張所 仁川、平壤、元山、大邱、鎭南浦、群山、木浦、馬山、咸興、城津、鏡城、安東縣、
爲替取引先 東京、大阪、横濱、神戸、京都、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、東京新大阪町、大阪西區、松山（以上日本）釜山、公州、光州、晋州、開城、海州、沙利院、博川、寧邊、義州（以上韓國）大連、（淸國）
當銀行は韓國中央金庫並に日本金庫事務の外普通銀行業務に屬する預金貸金爲替等精々確實親切に取扱申候

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 九拾五萬圓
京城南大門通
株式會社 十八銀行 京城支店
（電話四二〇）
本店 長崎市築町
支店出張所 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羅州、群山
大阪、熊本、佐世保、鹿島、五島
韓國日本
其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢二厘）
長崎貯蓄銀行代理店
（十八銀行京城支店）

●滋養と牛乳●
純良 牛乳
馬車配達
京城東四軒町
岡野牧場
電話壹〇六九
●衛生と消毒●

……牛乳……牧場……

★株式會社 百三十銀行 韓國總支店
京城本町二丁目十五番地
電話五十八番
資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎
爲替取組先
畿內 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戸、平野、住吉、茨木、下市
東海道 東京、横濱、大磯、甲府、靜岡、名古屋、宇田、熱田、四日市、津、山田、桑名、松阪
東山道 彥根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、松、青森、秋田、能代、土崎、高崎
北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤
山陰道 大聖寺、富山、伏木、新潟、宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子、境、松江、久手、大田
山陽道 龍野、姬路、西大寺、笠岡、高玉島、福山、鞆、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、山口、柳井、平生、下關、萩、德山、小郡、長府、綱干
南海道 牛窓、味野、岩見、岡山、串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鷲、州本、撫養、德島、普通寺、丸亀、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、西條、松山、三津ヶ濱
西海道 直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、行橋、後藤寺、佐伯、別府、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、入幡、長洲
北海道 函館、小樽、札幌
台灣 臺北、臺南
淸韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、晋州、海州、馬山
銀行一般の業務精々便利取扱可申候